



都市スラムの家庭調査報告



このままでいいはずがない

～新たな食と教育支援の開始～

このままでいいはずがない

今日、仕事があるかどうか分からない、病気になっても病院へ行けない、トイレで用を足さない、学校へ行かなくていいか分からないなど、その日その日をどうやって生きていくかを考えるのが精一杯なこの地域の人々と同様に、私も自分が置かれたことを考えてみました。想像すら難しかった、とても受け入れられが、指輪しいものでした。でも私たちが迎えてくれた人々は、このような状況を受け入れ、そして生きていくために、ある人々が笑顔で、ある人は涙を流して泣いていました。そして収入のない逆流の人をその中で支えて暮らしています。驚きの連続でした。でもこのままでいいはずはありません。調査を行う度に、力

が抜けてしまいがちですが、私たちにできることは何かを考えると目につきました。

新たな食と教育支援の開始

CYRは、R地区でパートナーである現地NGOケマラとともに、これまでの経験を活かして新たに2つの地域保育所を支援することになりました。また学校建設をしたR地区ではそこに通学する約500名の子どもたちを対象に朝食支援を開始しました。実施にあたっては、ほんの少しづつでも地域の方々から給食費の納入を呼びかけます。しかし、とてもそれだけでは困難な状況です。どうかこの新たな取り組みにみなさまからの更なるご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

2006年10月1日から12月11日までの2ヶ月半、カンボジア事務所では、インターンシップとして東京外国大学の学生の受け入れを行いました。業務調査にも同行し、インタビューの選択として活躍した豊安里（とよあんり）さん。インターンとして見てきた都市のスラムを、大学の後輩たちにお話ししました。



国立大学法人東京外国語大学  
カンボジア語専攻4年  
とよ あんり  
豊 安里

今、カンボジアはすごい建設ラッシュで、企業と政府が土地をばらばら買収してホテルやマンションを建てています。そして、元々そこに住んでいた人たちは強制的に追い出されることが頻繁に行われています。それに対する保障もありません。プノンペンでは、こうして追い出された人々がスラムを形成して住んでいますが、みなさん口々に住む家がなくなるからいいと誇って居ながら話していました。

実際にその場に行ってみて、正直「こんなところに人が住めるのか」と驚きました。まず家が小さいのですが、そこにたくさんの方が住んでいます。本当に驚いて小股と云いますが、簡易的な木の床の間にタンをベタベタ敷いたものです。トイレはあるとおっしゃるのですが、外に小さなタンが敷いてあるだけで、用を足した後はお尻を洗って生かして生活して、さらに食べ物が足りない状況です。私ならお尻を洗うのではありませんかと思いました。

調査では、病院に行けない、子どもを学校に行かせられないという方がほとんどでした。そして、ロケに「食べていけない、お金が足りない」と話していました。また、いつか家を追い出されるからならぬ、明日もしからしたら路上で暮らさなければならないかもしれないという不安を毎日抱えていました。今日、生きていくのが難しいという状況です。

そうすると、やっぱり子どもには勉強させるよりも、食べていくために働かせた方がいいと考えます。食べていくこと、生きていくことが大事なのです。教育活動の難しさを感じました。

インターンを通じて生のNGOの姿、援助の難しさ、国際協力のあり方を知り、自分にできるNGOとの関わり方を考えるようになりました。これからは京都府のプロジェクトには、今後何らかの形で関わってみたいと思っています。

国内活動

CYRカンボジアのプロジェクトは、さまざまな日本の活動に支えられています。今回は、国内でご協力いただいた方々をご紹介します。

愛知



愛知でCYRの活動が続々ひろがる  
高木 正彦

退職をした後、愛知でCYRの活動を展開すべく、人生の再スタートを決意しました。きっかけは、仕事をしていた頃にCYRを通してカンボジアへ寄贈した幼稚園を見学する際、10年ほど前に建てたにも関わらず見事に清潔整頓されていたのを見て、感動したことです。

愛知の活動において、まず「なぜカンボジアなのか？」を深く問いかけられます。そのため「カンボジアの今」を発信することが大事なことであると感じています。今、現地で求められていることは、スラムで放棄されている子どもたちのケアだと思います。本年は、「みんなで皆で」

キン祭り」を軸にした活動をしていく所存です。この活動を通じて、CYRの活動に共感し、一緒に参加してくれるスタッフが増えればくれることを期待しております。

カンボジアの子どもたちのためにポータルと人脈をつくる活動

2006年度活動の一覧

開催日	開催地	内容
12月10日	名古屋	「カンボジアの現状」講演会
12月11日	名古屋	「カンボジアの現状」講演会
12月12日	名古屋	「カンボジアの現状」講演会

企業



ワールド・カルチャー・フェスティバル  
キッコーマン株式会社  
広報・IR部 社会活動推進室 飯村 映子

ワールド・カルチャー・フェスティバルは、企業とNGOの連携によるチャリティ交流会です。NGOが支援する国の「食と文化を通じて国際貢献」を目的とし、参加費全額を寄付金としてNGOに贈呈します。2002年より始まり、第5回を迎える今回は、主催企業のアサヒビールとキッコーマン㈱に花王㈱も加わり、弊社社員約30名を含め、100名にも及ぶ企業人が参加しました。

07年1月19日、会場内ではCYRを含めた4団体のNGOのブースをスタンダー形式で作り、各国の料



理を食べながら、支援先の状況や活動の理解を深められた。また、プログラム後半には昨年引き続き民族衣装のファッションショーを行いました。今年も参加者にもモデルとして参加いただき大変盛り上がりがありました。1時間半という短い時間でしたが、さまざまな体験を通じてコミュニケーションが生まれ、参加者とNGOとの距離がより近くなりました。

今回の交流会が一過性のものでなく、社員による自発的な活動につながるよう今後も取り組んでいきたいと思います。

歳末義金のお礼

昨年12月に、都市スラムでの新たな活動のためにお願いいたしました歳末義金には、合計4,465,129円のご協力をいただきました。みなさまのあたたかいご支援によりお礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

カンボジアスタッフ紹介



保育コーディネーター  
チャン・スレイ

働いて一番強く感じているのは、教育を受けられない人がたくさんいるということです。貧しい家庭はほとんど教育を受けられません。子どもが多くて、食べ物もありません。子どもたちは、園が幼稚園で遊ぶ場所がなくて、家で遊ぶ場所もありません。生活に困っています。それを見て、私の子どもたちのことを思い出しました。自分もラッキーだったのは、ちゃんと教育を受けられたこと。おかげで、私の生活は良い方向へ変わりました。やっぱり教育が一番大事です。特に幼児教育だと思います。私はカンボジア人として、ご支援していただく方々に感謝の気持ちを持ちながら、頑張って、自分の国の将来のために、また子どもたちの将来のために、少しでも役に立てたいと思います。



織物業担当  
ペン・ソナル

織物業に関わって嬉しいです。生活に苦しむ人々を支えられるからです。私は品質向上と管理を通じた事業の効率化の運営に努めています。化学染料は人体に影響を与える毒物が含まれているため、最近では天然染料の使用を奨励しています。しかし、染料や繊維が少しくても早く家族を養うためのお金を必要としているため、天然染料の染料と化学染料の染料の理解を得ることができて嬉しいです。また、CYRが開いている織物ショップを外資の方やカンボジア人にも広く知ってもらうため、雑誌の広告とスタッフによる紹介を予定しています。そして将来的にはお客様のみなさんをお客様が来店して製品を買ってくれるようになり、織物センターが自立して運営できるよう取り組んでいきたいと思っています。

CYR 20 ボランティア

吉田 淳 さん  
経理ボランティア

自分の専門を活かして

2000年に定年退職となった後、社会と何かの繋がりを持つべく、元の上司・現在のCYRの副代表である安野さんにボランティアの紹介をお願いしておりました。その年の7月頃、CYRの事務所で事務局長の藤村さんを紹介され、週1回の経理業務のボランティアが始まりました。経理は自分が仕事で長年携わってきた専門分野です。CYRの会計は国内とカンボジアとの2つから成っていますが、当初は国内のみを担当、その後、市販の会計ソフトを導入し、国内、カンボジアの両方を処理することになりました。

続けられる理由

早いものでこれ7年が経ちますが、週1回、東京線を利用するので東京の気化を感じることが出来ます。また、事務所には職員・ボランティアとも若い人が多いので、一緒に仕事をしている若い人の考え方も吸収出来ます。加えて、多少は社会の役に立っているのかな？と思っております。これらがボランティアを続ける理由でしょうか。健康維持の一期にもなっています。



(財)日本ユニセフ協会 / (特活) 国際協力NGO センターでは、NGOの能力強化を支援するため、『南』の子ども支援NGO能力強化5ヵ年計画』という国内外の研修を行っています。06年度の海外研修先はカンボジア。CYRからは、広報担当の福田が参加しました。現地では活動する様々なNGO団体を訪問した報告からご報告します。



#### 援助に対する不感傷

外国人がその国へ入って支援を行う、何かの役に立っているのだろうか？現地の人々への価値観を押し付けてしまっているのではないだろうか？「援助」に対するこんな疑問をNGOに関わり始めた頃からずっと抱いていました。今でも常に気にしています。カンボジアの現状は、思い描いていたものより厳しいものでした。広がる汚職と貧富の格差の先には人身売買、住居の強制移転、都市への人口流入とそれに続くスラムの拡大、HIV/エイズの蔓延など、やっかいな数々の現実が、発展の波からこぼれ落ちた人々を無慈悲に襲いかかっています。一体どこからどのようにしたらこの根本原因が解決されるのでしょうか。そんな中、「カンボジア人」も「外国人」もなく、同じ「人」として、ともに課題に取り組み変は現地ではないかにも自然なように感じられましたし、また「よそ者」である外国人だからこそ抱える役割もあるように思いました。

#### 持続可能な活動を行うために

研修ではカンボジアで急成長しているNGO団体を視察しました。どの団体も、その活動の結果が職業の創設や収入向上に貢献していること、行政や他団体など上手にパートナーを組んでいること共通点が見られました。CYRは、同じカンボジアで教育支援を行っています。対象者の多くが貧困を抱える中で、収入の道、少なくとも安心して食べなければならない道がないと、子どもの教育のことを考えるようになるのは難しいとつくづく実感しました。考えてみれば当たり前のことです。生活が少しでも改善される道があってこそ、初めて持続可能な活動が出来るのではないでしょうか。それにはCYRが持つ教育の専門性を越えた柔軟な知恵が必要で、他団体との連携や情報交換が欠かせないと思いました。

#### 小さな芽を育てることから

今回は、厳しい現実を山ほど教えるカンボジアで、強い想いを持って、それこそ全身全霊をかけて活動に取り組んでいる方々に出会うことができました。これは、自分自身の仕事に対する姿勢を見つめ直し、今後の取り組みにおいて大変な刺激をいただきました。たとえ課題が多く、その根が深く絡まっていますが、決してあきらめるのではなく、小さな芽を育てることから取り組んでいきたい。学びの機会の提供とともに、こんな動員を授けてくれたこの研修に参加できたことを、心から感謝しています。

CYR広報担当 福田異子

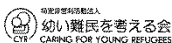
#### CYRの活動をご支援ください

年会費 正会員 ¥10,000 学生会員 ¥3,000 団体会員 ¥30,000

下記の口座にご送金ください。

郵便振替 No.00 ①-①-30227 (特活) 幼い難民を考える会 銀行振替 三菱東京UFJ銀行六本木支店 (管)No.1351747  
特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

※CYRは認定NPO法人です。5,000円を超えるご寄付は寄付金控除の対象となります。



〒106-0046 東京都港区元麻布3-2-20 丸越南ビル2F  
TEL: 03-3796-6377 FAX: 03-3796-6399  
Email: info@cyr.or.jp  
URL: http://www.cyr.or.jp

子どもたちの明日 61号  
◆発行日 2007年3月5日  
◆発行人 栗木正樹